

年度 2009・前期	曜日・校時月曜・3校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(哲学史) Humanity and Culture (History of Philosophy)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:菅原 潤 /Eメールアドレス:suga@nagasaki-uac.jp/研究室:環境科学部4階 409/TEL:095-819-2730 /オフィスアワー:火曜日 14:30~16:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 哲学と科学、宗教と芸術、倫理と社会、哲学と日本の4つの観点で哲学史を考察する。 授業方法: 講義形式を採る。 授業到達目標: 現代の生活における哲学の役割を、これまでの歴史的経緯を踏まえて理解すること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 哲学が諸学の王の座を去って久しいが、現代の政治・社会、宗教・芸術、科学技術を考察する際は今でも哲学は有効な役割を果たしている。この講義では哲学と科学、宗教と芸術、倫理と社会、哲学と日本という4つの観点から21世紀の哲学のアクチュアリティを探ることにしたい。  第1回 イントロダクション 第2回 哲学と科学(古代から近代へ) 第3回 哲学と科学(近代) 第4回 哲学と数学(近代) 第5回 哲学と宗教 第6回 哲学と神話 第7回 哲学と美学 第8回 古典倫理 第9回 現代倫理 第10回 法と市民社会 第11回 近代日本における哲学の導入 第12回 西田幾多郎と京都学派 第13回 近代の超克について 第14回 フェミニズムと哲学 第15回 まとめ			
キーワード	哲学、科学、芸術、宗教、倫理、日本		
教科書・教材・参考書	加国・平尾編『哲学の眺望』(晃洋書房)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価(100%)		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	西洋思想と日本思想の比較の仕方を身につけること		
備考(準備学習等)	特になし		